

不景氣は實際苦しい。泣きた
いこともあるし、泣くに泣かれ
ぬこともある。何んと云つても
金に関する辛さは、他人に打明
けられないものがあるだけ、それ
だけ苦しさも強く、寢醒が悪い
とは借金の辛さであるが、さり
とて借金で生命を奪られること
もないから、そこは度胸を定め
て、何うしても遣り切れぬ場合
は、債権者に一切の事情を打明
け、待つて貰ふなり、契約を更
新するなり、處分を受けるなり
して、その場を切り抜けるを賢明
なりとする。

比較的、金の貸借にかけては
合理的だと云はれる北米人等の
遣方を見ると、自己の經營する
事業が、不景氣若くは其の他の
事情に依り、何う工夫をして見
ても遣切れぬ者が、他のついて
場合は、自から進んで債権者會
議を開き、難局を切抜け得る程
度に債務の履行を延期して貰ふ
か、若くは破産を申請するかの
一を選ぶのであるが、彼等は金
儲けがあるのであれば、何等そ
に躊躇なく借金するとの様、見

老廬文集

近頃、地方からの通信に依る
と、不景氣の苦しさまさに、
金を借倒して通たり、偽署を行
つたり、財産を隠匿して責任逃
れを策したりして、外人から警
戒の眼を以て見られてゐると云
ふことであるが、如何に苦し
からと云つても、生命から二番
目の、信用を破壊することは、
謂ひる自繩自縛で、是れほど不
面目にして且つ不利なることは
ない。

白雲西雨

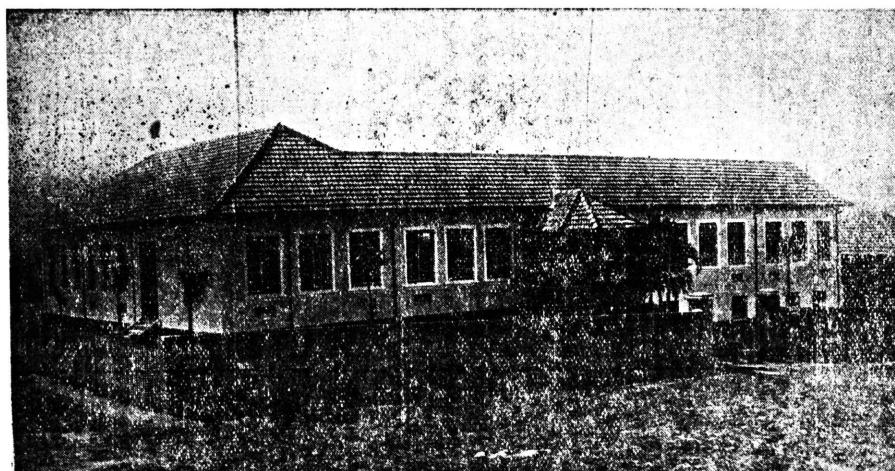
NOTÍCIAS DO BRAZIL
 Publicado Semanalmente
 Rio: Sagrada, 16
 Caixa, H. — Tel. 7-4670
 S. Paulo, Brasil
 Proprietário e Editor
SEISAKU KUROISHI
 ASSINATURA
 For Anno 30000
 " Semestre 16000
 " Mês 2500
 " Semana 1700

「若し是れが妥當とするならば、即ち期^{イニシ}く決心することに於て、僞署^{シメシテ}も、財産隠匿^{ヒヤウル}も、夜遁^{ナシタマツ}ぎ遣るの要^{ヨリ}がない。有史^{アリハシ}の財券^{セイクエン}を債權者^{セイゲンザ}に提供^{ヒサシキ}し、正規^{セイギ}の處分^{スフン}を受けて後、徐ろに再^{セカンド}舉^{ハシメル}を圖^{シム}ること、北米^{ヒツメイ}人のそれの如くなるので、茲^{ヒテ}に始めて第二の方^{ハタハタ}法^{ハタハタ}が立^{タチ}つ。

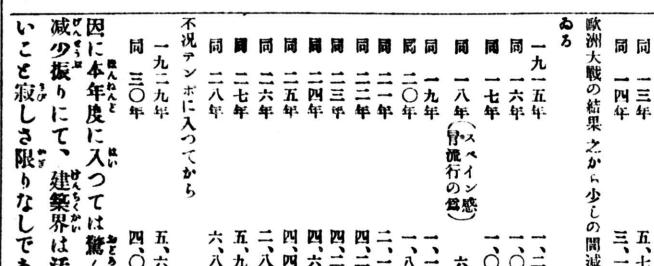
委員の互選を了へ 奥地踏査の代表員

歸聖は本日の豫定

テクアラニア夕食を執り、七時十四日朝
分イチラビーナ經由でノロエヌ
テ地方に向け出發、二十四日朝
ビザ驛着、ファカ及びペラビス
タ耕地視察、ビラジエイにて
食、アルベス及びガイア、ガル
ナ等を視察してマリ、アムニ一泊
二十五日ボムベイ方面へ向け
出發ロドルフオ、ラー・ラ氏耕地
にて叢食、クアタ驛に至り、ソ
ロカバナ線列車にてサント・アナシ
オニに向け出發同所に宿泊
泊二十六日サント・アナシ
タシオ及びブ・ブルデンテ、レ
ジエンテ、フェイジヨー等の約
四千萬本に亘る小耕地區を視察
の上オウリニヨス若、翌二十一
七日は同所よりインガ驛まで
車の儘インガ(北バラナ)より白
動車にてバルボーザ耕地に至



新築成るれよりスンリ市スンリのスンリ園學あわで堂講る得し容客を人百五はるゆ見に面倒で室教のつ四と室員教はるゆ間に立正



同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
九二 一 二 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三
年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年

九二七年までに於ける異常な開け方は、他に北米のシカゴなどにあるのみとされてゐたが、即ち、あの時代には一時間に一家屋が建てられ、次のやな數字を示してゐたのである

建築物から見た 不況の侧面觀

東西南北

東 西 南 北

にかれて伊國の注文により製作中なりし
リ-〇・X號型大飛行艇は愈々この程完成去
る二十三日試験飛行を行つたが成績良
き。このリ-〇・X號は目下ラバルマス島在
のD.O.N.號と同様の大きさで性質も同じ
である。

國際聯 盟と軍備縮少會議 一九三
九年二月二日開催の軍備縮少會議には聯盟
未加入國をも参加せしめる爲め同聯盟は
今回米國、ラジル、コスタリカ、アフガ
ニスタン、エザブト、エクアードル、メ
キシコ、トルコ、芬蘭露國に對し同會議に
に參加する機招待狀を發した。

支那の 通信機器支那國民政
府は目下南支那地方に起り、
つゝある反國民政府派の反亂に對する外
國への電報通信を擡じ且つ一般通信機關
にも嚴重なる警戒を加へ、各國の電報通
信社は国民政府の不當なる監視のもとに
置かれている。

シカゴ バンダリヤ四人農場の爆破
ナ四人農場に於て六百名の囚人結束逃走
の目的で騒擾を惹き起し、農場内の武器
物に放火し混亂に乘じて多數逃走せんこ
せしより直に軍隊の出動となり騒擾鎮壓
死傷者七名を出した。

佛國海 海軍本年度造船議定本年度
二日同佛佛院に於て發表されたこれに依
るる戦艦一隻二萬三千三百噸、輕巡洋
艦二隻各七千五百噸のもの。その他小艇
艇の如なり。

スペイ ン軍制改革 スペイン新井
和國政府は軍制改革の必要を認めた
を認め開議に於て陸相は大體次の案を説
明した現在の六二聯隊の一六軍團を一軍
團四聯隊にして八ヶ軍團に縮少し、現在二
十七騎兵聯隊を十聯隊に縮少内二聯隊は
タング隊に一大隊も機關統隊、騎兵聯隊
の將校を二萬二千から七千名に減じ、一
百八十五將官を四十八將官に減少する。
に依る政局は五〇〇一七〇〇萬ベセタ
を節約し得るを證明した。

官公吏 減俸令 二十二日開議に於
て官公吏減俸令が決定した
減俸率は輕微なれど御裁下あり 次第六目
一日より實施するを言ふ

在伯邦人農業者 (一)
サントス 齋藤 生
度々大豆油工業に關して日本人諸君特に農業者から左の如き杞憂なる話を承る。
一、大豆油は果して食料として適當なる者か
二、大豆油は伯國にて新しい油故商人が食用油として貰ふだらうか
三、該會社が生産過剰の時に矢張り現在の珊瑚同様價格の下落を來すだらう
四、大豆油工業株式會社ではないか
配當株式會社ではないか
右の質問に對して第三者から少しく書いて見よう。大豆油の變革歴史などは寧ろ邦人特に在伯農業者は本國に於て大豆油粕を肥料として使用せし結果皆耳にして居る事、つまり滿州が原產地にして有名であり日本の輸出額の或部分をしめて居る事も同時に承知なり此に順を追ふて記載する事とする。

謹

告

一九三一年一月十一日リンス中央日本人會創立總會ニ於ケル當選役員左ノ如シ

山廣山多太藤高 中菅西吉庄淺菅吉太川鈴吉相河佐重林內加篠林中松西田廣石山佐瀧
田木根羅永田橋村山瀨山野山瀨田原木住野藤富田山崎八須谷中木井中藤定次
孝義寬間久力忠太輝軍才利輝軍次代岩勝益一猪七吉正三矢正又太米信次
志人一輔郎藏一郎吉藏平吉實吉平郎太太彥速躬郎六平藏憲常郎吉治藏夫郎吉一郎郎

アカローフ支部	長評議員	同
融和支部	評議員	同
アケアブランカ支部	島評議員	同
ベレーヴ支部	長評議員	同
フクエイ支部	長評議員	同
クロキサフ町支部	評議員	同
フローラー支部	長評議員	同
サンジョアン支部	長評議員	同
東部サンジョアン支部	長評議員	同
クリエサフ植民地支部	長評議員	同
共和植民地支部	長評議員	同
離ヶクラール支部	長評議員	同
バルミシタール支部	評議員	同
旭植民地支部	長評議員	同
福岡植民地支部	長評議員	同
バルボーザ支部	長評議員	同
昭和植民地支部	評議員	同
開化植民地支部	長評議員	同
アリアンサ三區支部	長評議員	同
アリアンサ第一區植民地會長		同
上塙第二植民地植民會支部		同
上塙第二オンドーナ支部	長評議員	同
セセリーナ植民地支部	長評議員	同
サンダアメリカ支部	評議員	同
大和植民地支部	長評議員	同
第一區大和植民地支部	長評議員	同
コレゴメンカイア支部	長評議員	同
バツトス支部	長評議員	同
フィゲーラ支部	長評議員	同
高地支部	長評議員	同
ビラ・サビーノ支部	長評議員	同
イビランガ支部	長評議員	同

辻島酒川後宮齊野武清中家中齊山河安高玉古片淺吉三師堀上瀨宮楠上佐田中磯藤丸吉原龍森中田權木永高
津井中藤平田水村入藤本村田駒城川岡田浦富田村川本原野藤中島部井山永木部野中藤野橋
田藤島重安鹿田仙九增林與作啓内伊時村勘太
憲平與七市治東清卯義次敬兵次眞次專太政卷七政十一太太一五太照丈義之市謙又唯太
長三藏吉郎寛清郎清吾藏平備一郎次衛郎助郎一乙郎太藏平喜郎二郎郎郎房吉夫武八進藏吾夫雄俐郎藏

諸團體をまで、革新、改革、レボルン等の聲に震駭せしめ小さきは前哨戦に終り、大なるは腕力沙汰より兩黨分立の互に讓らぬ面倒な社會にしたもの十指を屈するも尙ほ足らざる有様である、此處プロミツソン中央日本會は兩三年前より舊日本人會の外、パレーにケイシャーダ方面の新會員をも網羅して、全一千五百の全プロミツソン日本人會の唯一の團體として、他所の見る目も羨ましい程訓練された團體として認められておつたものであるが、不景氣風と共に吹き捲る革命の嵐に、さしも輩を誇ったプロミツソン中日會の牙城も、去る一日の總會後に於て、革新黨の分立となり、百餘家族は新たにプロミツソン會式を擧げ、運動會、相撲等を催して氣勢を揚ぐるに至つた。

トロホーム講習會

去る十八日より廿一日まで四日間、リンス學園講堂と汎リンス青年會とで、齋藤ドクトルは古關助手を補佐役として、全額より下記十名と自費聽講生とにト革新會を組織して、廿四日ゴンカ區小學校に於て盛んなる發會式を擧げ、運動會、相撲等を催して氣勢を揚ぐるに至つた。

トロホーム講習會の數々

不景氣が生んだ

偽署事件の數々

不景氣が生んだ

新井君の感想文を
讀むで

晋一

一用三威氣需而萬物生

悲しみの群像
更生した

帝都路面下の空洞
漏洩ガス充満の個所百廿八ヶ所

帝都の路面鋪装が完成されて行く共にガス工作物から漏洩する路下のガスに對しては完全な「エアーブーフ」を作つて蓄積してゐるので到る所路下の空洞は漏洩を充されれて行く、これに加へて水道、電線等路下専用がますます増加して行くので今日本の道路下のマンホールその他空洞工作物は悪ガスの蓄積場化しつゝある、これ等の悪ガス漏洩は七%以上から爆發性をおび一五%以上に達する時は爆發危険性濃厚となり、市民の生命財産を脅威するのみならず、市道路課で最近全市の舗道装置に對して街路下入孔その他孔内にガスの蓄積量を検査した。それによると全市の漏洩數は四百五十六ヶ所もあり、最も危険性浓厚な場所が百廿八ヶ所にも達する。

▲「のど」に保險 藝妓とアナウンサー

仙臺放送局のアナウンサーは世界的に皮切りである

▲日當二回の震災に横死した

立退料

航空演習で中瀬松飛行七機隊の主役として全國飛行聯隊

飛行學校が參加し我が航空

三十五歳と新陳代謝を行ふ事になり第一回として来る八月一日二百六十名の退職者を出すか失業時代のことであり長年勤続した勢に

大正十二年の大地震に横死した

業員の停年制を設け

車掌、技士、助手五十五歳、自動車運転手四十五歳、同女車掌

三十五歳と新陳代謝を行ふ事になり第一回として来る八月一日二百六十名の退職者を出すか失業時代のことであり長年勤続した勢に

前例のない優遇

三萬の從業員を擁して經營難にあへぐ東京市電氣局では今度從

右一郎氏の手で模倣會を行つた

丸山光頭總監去つて高橋新總監

各務ケ原飛行場で過般來組立を

ねたがこの程漸く出来上つた

時廿分新總監は丸山前總監より

新戰闘機は去る四月十三日立川

至十錢の融資記念堂構内右側に設置することに決した、像は

丸山光頭總監去つて高橋新總監

各務ケ原飛行場で過般來組立を

ねたがこの程漸く出来上つた

時廿分新總監は丸山前總監より

新戰闘機は去る四月十三日立川</

Policias do Brasil

日曜木 號九百七第 日八廿月五年六和昭



小野次郎右衛門之卷(六)

次郎右衛門は三之助を連れて、多くの見物人から歓聲を浴せかけられながら小舎を出た。
「つまらぬ事で大分暇をつぶした。三之助急いで参らう」
『ですが先生、明日また来るの
でせう。』
「うむ、大人氣ないことながら約束した以上來ない」と云ふ譯に
もゆくまい。彼奴等どうせ碌な
カヨミあるデキモノには
ビシノール軟膏!!

ことを考へまいがな、はゝ」
次郎右衛門は虚心坦々たるもの
であつた。

五、小野派一刀流
家に歸つても次郎右衛門は堅
三之助に口止めして置いたから
誰知るものもない。翌朝になる
ともう昨日の評判が高い。門人の
一人は早速聞いて來た話を
師匠に傳へた。そして
「先生、何處の何人か知りませ
ぬが、中々偉い腕前の者もある
ものでな、何しろ剣術屋と云
ふのが一通りならぬ強い奴等で
大にも大兵の男二人は旗本の天
狗連もひざい目に遭つてゐる様
子でござります。」

「左様かな。」
次郎右衛門は知らぬ顔。
「それを矢立一本で向つて苦も
なく相手を一撃の下に打ち据へ
ると、もう立つことが出来なか
つたとのことでござります。」

「年恰好はどうの位の御仁ちやつ
たな。」

トロホームには
【タカ點眼藥】

次郎右衛門少し人が悪い。
一歳は四十前後、身丈も先生位
のお人で、また服装と云ひ書付
いた態度と云ひ、相當身分ある
者だらうとのことでありました
【御苦勞】

次郎右衛門は早速外出の身仕度
次郎右衛門は早速外出の身仕度

ESCRIP. DE NAOJI ATSUMI
R. Ypiranga, 13-1º. 4 Caixa, 3794 S. Paulo

農産物委託及機械器具
購入食糧品取扱等
財界仲立斡旋業
特に歓迎
(應無料御相談)

聖市イビランガ街
十ニ一階四號

厚味直治

世界は我が
市場なり

聖市イビランガ街
十ニ一階四號

厚味直治